

2002年度九州支部発表会の報告

2003年3月8日(土)に福岡市の九州大学国際交流プラザで標記発表会を開催した。プログラムは次のとおりで、15題の発表は局地的な現象あるいは地球規模の現象を対象とした解析や数値シミュレーション等の多彩な内容であった。また、今年度の九州支部奨励賞の受賞者である弘中秀治会員(宇部市役所)と用貝敏郎会員(宮崎地方気象台)に対して、賞状と記念品が贈呈された。この賞が会員による気象学の研究、気象学を応用した活動及び気象学の教育・普及活動の励みになればと考えている。最後に、九州大学応用力学研究所 鶴野伊津志 教授が「黄砂輸送モデルと黄砂シミュレーション」と題して、近年の黄砂現象の特徴と黄砂輸送モデルによる黄砂輸送のシミュレーション結果について特別講演を行った。今回の発表会には大学の学部学生・院生から防災機関及び民間企業の職員まで多くの参加があり、参加者は55名に及んだ。支部発表会は幅広い分野の発表を聞くとともに、異なる分野の会員同士の親交を深める場であることから、来年度もより多くの会員による発表をお願いしたい。

2002年度九州支部発表会プログラム

1. 湿潤大気場における噴煙ダイナミクスに関する数値実験
水谷文彦(名古屋大学・地球水循環), 中島健介(九州大学・理), 坪木和久・篠田太郎(名古屋大学・地球水循環)
 2. 梅雨前線に沿って東西に並ぶ円形雲クラスターの発達過程
河内 悠・守田 治(九州大学・理)
 3. 台風初期渦形成に鉛直シアが及ぼす影響
中野満寿男・中島健介(九州大学・理)
 4. X-BAIU-01期間中に九州南部地方を通過したメソスケール対流システムの構造と発達過程
花田博之・川野哲也(九州大学・理), 吉崎正憲・加藤輝之・田中恵信(気象研究所), X-BAIU-01観測グループ
 5. X-BAIU-02期間中に観測された電氣的活動
鈴木賢士(山口大学・農), 川野哲也(九州大学・理), 吉崎正憲(気象研究所), X-BAIU-02観測グループ
 6. 2001年10月16日の宮崎県平野部における豪雨(「高気圧周辺部の下層東よりの風」による豪雨)
用貝敏郎(宮崎地方気象台)
 7. 奄美大島を通過した二重眼台風第0215号の解析
室谷宏一(名瀬測候所), 毛利志織(名瀬測候所奄美空港出張所)
 8. 北太平洋西部における台風発生に関連する大規模場と海面温度
古沢進・伊藤久徳(九州大学・理)
 9. 2002年の南極オゾンホールと成層圏突然昇温について
坂井亜紀子・森明子・廣岡俊彦(九州大学・理)
 10. 成層圏におけるオゾン輸送機構について
松村美沙子・廣岡俊彦(九州大学・理)
 11. 成層圏半年周期振動の成因についての解析
久保博司・三好勉信(九州大学・理)
 12. 内海に面する地域の局地循環に対する海面温度の影響
大河内康正(八代工業高等専門学校)
 13. 久住山南麓の草地斜面の水収支解析
平山陽介(九州大学・生物資源環境科学), 小林哲夫(九州大学・農), 長 裕幸(佐賀大学・農)
 14. 海岸における海塩粒子サイズ分布の観測と解析
野中善政・境 幸夫(宮崎大学・教育文化), 大河内康正(八代工業高等専門学校)
 15. 長崎地方における2002年の黄砂現象
荒生公雄・石坂丞二・古園久也(長崎大学), 青木一真(富山大学), 杉本伸夫・松井一郎・清水 厚・森 育子・西川雅高(国立環境研究所)
- 特別講演
「黄砂輸送モデルと黄砂シミュレーション」
九州大学応用力学研究所 鶴野伊津志 教授